

萬 亀

B A N K I

2023年3月 vol. 141



[特集] 人とペットと
東長寺

もくじ

- 1 住職挨拶
- 3 **[特集]**
人とペットと
東長寺
- 7 文由閣へようこそ
- 9 「結」を訪ねて
- 11 暮らしをととのえる
お寺のおはなし
- 12 東長寺こども食堂
- 13 お知らせ
- 15 山内行事
- 17 東長寺基本情報
- 18 結の会のご案内

住職挨拶

3月をもって10年程続いた某ラジオ番組が終了すると耳にし、私もチャンネルを合わせました。その番組には終了を惜しむ著名人が放送毎にゲストで参加し、はなむけの言葉を送っていたのですが、とあるミュージシャンが出演し、かけた言葉が心に残りました。「番組を終了させることは全然いいよ。僕、長く続けることは全然かっこいいと思っ

てないから——」40年近くも音を鳴らし続けている彼が言うからなのか、彼の人柄にとっても似合う言葉だなあと思いました。諸行無常。我々僧侶からすると、もはや言葉にするのも気恥ずかしい程、常に意識し、繰り返される言葉ですが、社会が大きく変わろうとしている今のよ

うな時代にはそれをますます色濃く感じています。百年前は遺体を焼骨にすることはほとんどなく、30年前には個人墓はおろ



か室内のお墓だつて限られていました。我々は長い歴史の中のうたかたの常識の中で、意識を共有しながら生きていくわけです。今号萬亀ではこの春よりペットの遺骨を個人の思い出の品、副葬品としてお寺でお預かりすることを話題にしています。皆さまより多数頂戴していただきました、思い出とともに祀られたいという希望を叶えてまいりたいと存じます。

思い出が美しく感じるのは変化を恐れた人の心模様が映されているのかもしれませんが、「あの時は良かった」などといった言葉を使つてしまいそうになるのは、思い出が一見普遍で変化しないもののように感じているからではないでしょうか。変わらない何かを求めるからこそ、諸行無常という言葉があるように、本

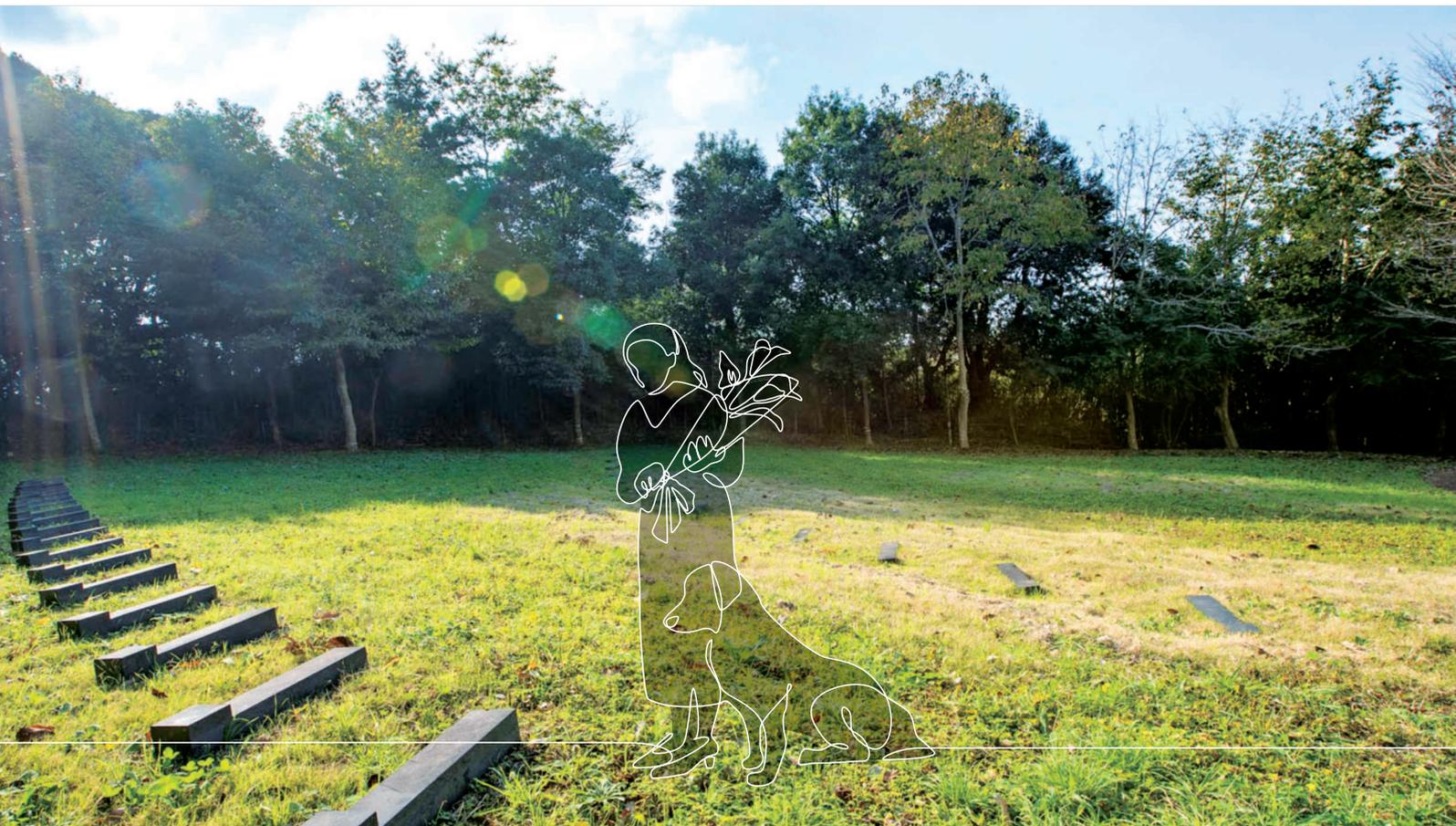
来は思い出だつて美化され、風化されていきます。

しかし、思い出や記憶と共に私達が生きていくことは決して否定されるべきでもないと思うのです。私たちもいずれ誰かの記憶の中に生きることになります。そのうたかたの記憶を大切にすることをラジオゲストの彼は言っていたように私は感じたのか、自分の心のことだつて確かなことは言えませんね。人は大切な思い出と共に生涯を全うしたい、そう自然にとらえれば、ペットを大切な副葬品と考えるのが当たり前の時代がそう遠くない時代に常識となる、そんな予感がするのと同じことです。

新しい年を迎え、山内では引き続き感染予防対策に努めております。皆さまのご参詣を心よりお待ちしております。 合掌

東長寺住職

瀧澤遥風



【特集】

人とペットと 東長寺

血縁や家制度に縛られない東長寺の個人墓。

自分らしく自分で選ぶ、個人の生前墓というかたちは
縁の会発足当時、世の中からは常識外と驚きの声が上がりました。

25年以上の月日を経て多くの方の支持をいただいております。
現代を生きる人々の中では、常識とされるものもしなやかに変化していると感じます。

結の会ではこの度、新たにペット共葬を始めることとなりました。
当初より多くの方に賛同をいただいたことに、新たな時代の息吹を見出しております。

今回の特集では、開始に至った背景や仕組みをご案内いたします。

「ずっと、一緒にいよう」
その絆に応えたい





住職に聞く「誰かのために生きる喜び」とは

心を尽くすことが

「生きがい」となる瞬間

「施したい」という気持ち。これは誰しもあるものです。誰かに施して、必要とされたいと願うのは人の本性、人の生きる理由であると思います。自分のためだけに生きようとする人生は、実は張りがない。そして、人生は生きがいが減りやすい設計にあるものです。また、そのような「生きがい」を、お寺が提案するというのが「寺のある暮らし」の本質です。

東長寺のこども食堂もその視点からスタートしています。一見、こどもたちだけのための活動に見えるかもしれませんが、それは違います。たとえばある人が子供の時、両親から教わった料理があるとしましょう。それを直接

血縁がなかったとしても、こども食堂ではみんなに振る舞うことができる。それは、料理の作り手の「施す喜び」となるでしょう。そんな生きがいとなつてほしいからこそ、東長寺ではこども食堂も同好会も開いています。ペットの存在は、個人の生きがいをつくるという点で、こども食堂の活動ととても似ていると感じています。

ペットが気づかせてくれるわたし

これから、結の会でペット共葬が始まります。これは、単にペットを特別扱いするためのものやペット霊園ではありません。

東長寺の個人墓は、現代における個人の生き方、個人の選択にふさわしいかたちは何か、との模索から生まれた

ものです。「わたしはこうやって生きてきた」という現れとして、家や家族に縛られず選べる生前墓です。いわばお墓も人生の選択肢、構成要素ということですね。また結の会は、文由閣納骨堂と地方寺の樹林葬による両墓制。最終的には、大地に還るといってお墓です。それは、自然という広く大きな「世界の一員」になるということ。ペット共葬は、ペットを生きがいとする現代人の生き方に示す選択肢のひとつなのです。

人生の大切なパートナーとしてペットと暮らす方に、また「施す喜び」や誰かのために生きる幸せを感じている方に、この選択肢が安心をもたらしものになつてほしいと願っています。同時に、ペットが今いない方も、東長寺のペット共葬があることで「それなら、飼いたい」と思えたならば幸いです。(談)

施す喜び、幸せを感じる方の、その気持ちを応援したい。

東長寺住職 瀧澤 遥風



現代人の生き方に ペット共葬という選択を

現在、結の会事務局ではペット共葬

をご希望される方へ、お申し込みの受け付けとご説明を行っております。すでにご契約がお済みの結の会会員様もお申し込みいただけます。

また、縁の会会員様でペット共葬を望まれる方に向けて、契約変更のプランもご用意いたしました。大切なペットと共に眠りたい、亡くなったペットのお骨を手元に残してあり離れがたい、などペット共葬にご興味をお持ちでしたら、まずはお気軽にご相談ください。ご相談、お申し込みは結の会事務局にてお受けいたします。お電話のほか、文由閣1階へのお立ち寄りもお待ちしております。

また、縁の会会員様でペット共葬を望まれる方に向けて、契約変更のプランもご用意いたしました。大切なペットと共に眠りたい、亡くなったペットのお骨を手元に残してあり離れがたい、などペット共葬にご興味をお持ちでしたら、まずはお気軽にご相談ください。ご相談、お申し込みは結の会事務局にてお受けいたします。お電話のほか、文由閣1階へのお立ち寄りもお待ちしております。

ご準備のながれ

■「結の会」会員様

■「結の会」未入会の方
ペット共葬をご希望の方はお申し込みをお願いいたします。お申し込みは、結の会事務局にて承ります。

■「縁の会」会員様

ペット共葬をご希望の方は結の会への契約変更によりお申し込みいただけます。契約変更・お申し込みは、結の会事務局にて承ります。

※ご位牌の作り替えなど手数料を申し受けます。



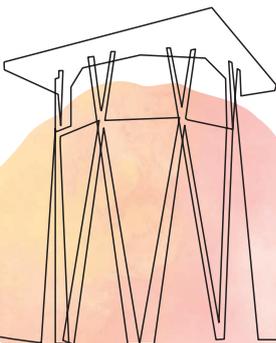
お問い合わせ連絡先

結の会事務局

☎ 03-5315-4015

(9:30~17:00)

東長寺 文由閣 龍樹堂



- 会員様の骨壺にペットのお骨の一部を収めます。ペットのお骨は「副葬品」として扱われるため、ペット専用の位牌や骨壺のご用意はありません。
- 33回忌以降は、お申し込み時に選択いただいた分骨先にて合葬となります。

- ペットが先に亡くなった場合、東長寺にてお骨をお預かりすることも可能です。ご相談ください。
- 会員様のご納骨まで手元にペットのお骨を保管されても構いません。



納骨・埋葬のながれ

ペット共葬にまつわる Q & A

結の会会員様

Q.ペット名義で結の会への入会はできますか？

A.ペットのみの入会はできません。

ペット共葬はあくまで個人墓が基本であり、「ペット霊園」ではありません。したがって、ペットのみの入会はできません。

Q.いつごろから申し込みやペット共葬ができますか？

A.お申し込み、ご相談は受付中です。

ペット共葬の開始は本年4月末頃を予定しております。

Q.今はペットを飼っていませんが、将来飼うかもしれせん。後からの申し込みは可能ですか？

A.はい。可能です。

ペット共葬の場合、分骨先が宮城県気仙沼の「清涼院」または千葉県袖ヶ浦の「真光寺」いずれかとなります。東長寺多宝塔を選択済みの場合、分骨先の変更をお願いいたします。

Q.様々な種類のペットを、複数飼っています。みんな一緒に共葬できますか？

A.原則、共葬するペットの数や種類に制限はありません。

いきものの種類、頭数に関わらず、会員様と共葬できます。ただし牛や馬などの大型動物はお受けできない場合がございます。また、ペットを個別に埋葬される場合は、1回の埋葬ごとにお布施のご志納をお願いします。

Q.過去に亡くなったペットのお骨があります。自分と共葬にしたいのですが？

A.会員様のご納骨時にペットのお骨もお受けします。

ペット共葬へのお申し込みをお願いいたします。

縁の会会員様

Q.すでに縁の会の生前契約をしています。今からペット共葬にしたいのですが？

A.契約変更により、可能です。

縁の会会員様は、結の会への契約変更によりペット共葬が可能となります。詳しくは結の会事務局にてご説明いたしますので、ぜひお問い合わせください。



ご相談は
結の会事務局へ

文由閣1階ロビーにて
コーヒーを入れてお待ちしております

結の会事務局より 御礼申し上げます

ペット共葬を開始するにあたり、結の会会員様に向けた事前アンケートでは、ペットのいる方もそうでない方も含めて、当初より実に**97%以上の方より賛同・承認のご回答をいただきました**。また非承認の会員様におかれましても、その後、**個別にご相談させていただき、ご了承を賜りました**。

みなさまの賛同・承認に改めて感謝いたします。

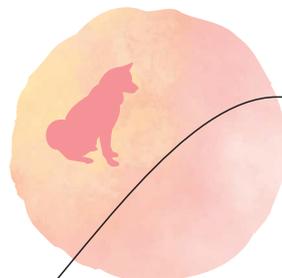
お申し込み時に ご確認します



- 分骨先をお選びください
宮城県気仙沼の「清涼院」または千葉県袖ヶ浦の「真光寺」
※東長寺多宝塔の選択はできません。
- 共葬するペットの状態（存命である、すでにお骨がある など）
- 共葬するペットの種類、数をお聞かせください。

ペット
共葬
お申し込み

契約変更
お申し込み



分骨先 清涼院・真光寺

- 会員様の個別区画に、ペットのお骨（文由閣に納骨したお骨を除く全て）を埋葬します。

※1回の埋葬ごとにお布施のご志納をお願いします。





文由閣へようこそ

昨年、10月の終わりに改修工事を行った文由閣1階ロビー。

その後も壁に色を塗ったり、椅子が追加されたりと、少しずつ手を加えながら皆さまをお迎えする準備を進めております。やがてあたたかい季節になり、もう少し人と人が集いやすくなる日が来ると信じて、さまざまな用途を構想中です。

すでにたくさんの方に
ご訪問いただいております

文由閣の1階に、光の差し込むある日の午後。さまざまな方が訪れます。本院にお参りの方が「前号の萬亀を見て、来てみました」とご挨拶をいただいたり、「前から気になっていたので」と近所にお住まいの方がドアを開くことも。スタッフ一同、嬉しいことと感じております。同時に、「この場所をもっと活かしたい」「東長寺らしい活動を」とアイデアを出し合いながら検討を進めています。

お坊さんがいる・話せる
「寺カフェ」構想中

まず注目したのは「文由閣がお寺の一部とわからなかった方々」の存在です。その原因は本院から離れた位置や外観に加えて、訪問される方々と僧侶と

の接点が少なかったことにあるのかもしれないと考えました。

東長寺には全国各地より縁あつて勤めることになった僧侶が5名ほどおります。まだ若い者は「いろいろな場所で、たくさんの人と関わりたい」と思いながら普段は本院でお勤めしております。一方、檀信徒の方からは法要や行事の場ではなく、もう少し気軽にお坊さんと話してみたい、というお気持ちを感じる場面もありました。

そこで、文由閣ロビーでお坊さんとお話や交流ができる「寺カフェ」を始めてみることにいたしました。未だ新型コロナウイルスの感染状況は注視しなければいけませんので、カフェと云っても、僧侶の故郷のお菓子をお茶請けにお飲み物をお出しするだけという、簡素なスタートになりそうです。

お出かけや人とお話する機会

が減ってしまった昨今。僧侶たちの自己紹介も兼ねて、さまざまな交流の場をお楽しみいただければ幸いです。開催は暫定ではありますがありますが、平日月二回程度とする予定です(左記参照)。
「寺カフェ」以外にも、セミナーやワークショップを企画中の文由閣。普段からお茶をご用意してお待ちしております。ほっと一息つきながら今後の催しものアイデアや、何気ないお話しをいただけたら幸いです。



コーヒー券をご用意しました

文由閣1階で利用できる美味しいホットコーヒー券をおつけしました。お出しするのに少々お時間がかかってしまいますので、2名までの少人数でご訪問の際にご利用ください。皆さまのお越しをお待ちしております!



文由閣
ホットコーヒー券

※ご利用は開山時間内、2名様まで
※利用期限：2024年3月31日まで



文由閣
ホットコーヒー券

※ご利用は開山時間内、2名様まで
※利用期限：2024年3月31日まで



可動式キャビネット



可動式のキャビネットを活かすことで、催し物に合わせたテーブル配置ができるようになりました。セミナーや講演会のときは、上の写真のようにキャビネットを演壇にしてスクリーンを設置。体験型のワークショップのときは、下の写真のように机を広く、キャビネットはカウンターのように配置することができます。

 お坊さんと話そう

寺カフェ(仮称)開催予定日

僧侶2名とスタッフ1名がお待ちします。

4月：3日(月)、25日(火)

5月：19日(金)、30日(火)

6月：5日(月)、27日(火)

時間：15:00～閉山迄

※内容が急遽変更となる場合がございます。

「結」を 訪ねて [連載]

東京・宮城・千葉
「結の会」を包む自然

2つの生前墓 ご訪問のススメ

結の会の特徴は、都会にある参り墓と、自然に包まれた樹林葬による祀り墓を組み合わせた「両墓制」にあります。当山では、皆様にこの2つの生前墓を積極的に行き来していただきたいと考えています。ぜひ実際に現地を訪れて、ご縁を育んでください。そこで生まれる環境への慈しみ、地域の活性化が個人の中に留まらないエネルギーになると信じています。

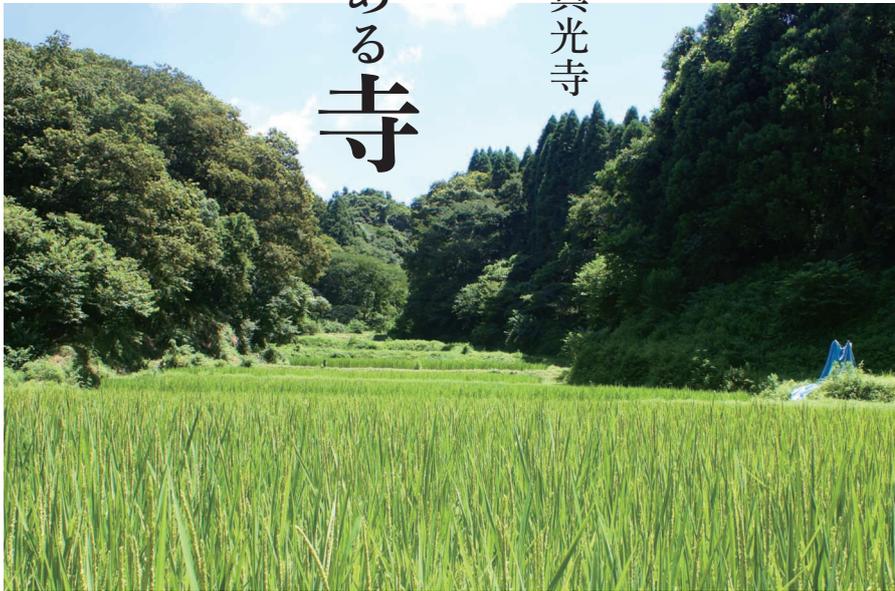


東長寺が地方寺と コラボする理由

「死後は自然に還りたい」という人々の思いを受け止めつつ、樹林葬によって地方寺院と人の交流が生まれることで周囲の山林や自然環境が保全・再生されていくことを理念にスタートしました。

千葉袖ヶ浦真光寺

里山 とある寺



お寺と共に再生した いにしへの棚田と米作り

のどかな里山の風景が周囲に広がる真光寺。かつては農家の担い手が減り耕作が放棄されていた荒れた土地でした。そこに水田の風景を取り戻そう！とお寺が中心となって田畑の再生開墾を2004年より手がけています。

この場所がまた手付かずの荒地だった頃から「山から田んぼ、そして川に続く生態系を復活させることを夢見ている——」と語っていた真光寺の岡本住職。「里山とは人の手の入っている、人にとって身近な自然のことです。膨大な年月の中で、人も自然の一部としてかわりながら作られた自然なのです」と指差す先には、

今では山間を上へ上へとこのぼる階段のように棚田が連なっています。

お寺では田植えから除草・稲刈りを誰でも参加できる体験学習イベントとして開催したり、田んぼの周囲に生きる昆虫や生き物の観察会や虫狩りを開くなど、お寺と水田を中心にした取り組みが続いています。その影響は、参加する子どもやおとなたち「人間」には自然への理解を、周囲の動植物には人の手が入ることによる再生と回復をもたらしています。

里山再生のアクションを、真光寺では「上総自然学校」と銘打ち、都会の人も地元の人とも隔てなく受け入れています。外で過ごすのが楽しくなる春。アクアラインを渡って、人と自然の両者に循環を生み出す里山活動に参加してみたいかでしょうか。



お寺の周りの



いきものたち



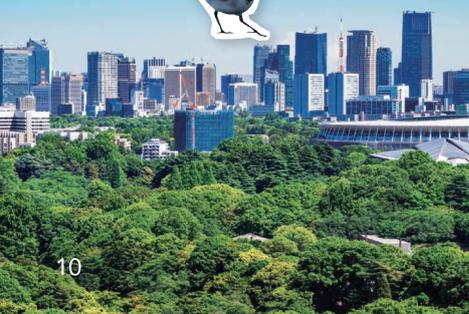
東京新宿区東長寺 御苑 とある寺

お寺の水辺に集う 御苑住まいの野鳥たち

文由閣を取り囲む水辺や、本堂前の水の苑では、小鳥たちが水遊びをしているのを見かけることがあります。鳥たちの住処はおそらく新宿御苑。広大な敷地内に1万本を超える木々と複数の池があり、野鳥の集まりやすい環境が揃っています。園内で出会える鳥はウグイスやキツツキの仲間コゲラ、カワセミ、オオタカもいるそうです！

東長寺から歩いて5分の場所に広がる新宿御苑。その起源は徳川家康の家臣、内藤清成です。家康から「馬でひと息に廻れるだけの所領を与えよう」と言われた清成。現代の四谷・大久保・千駄ヶ谷・代々木を走りぬけ、約22万坪もの広大な所領を手に入れたのだとか。このとき疲れ果て息絶えた駿馬にちなみ、御苑に隣接する多武峯内藤神社には駿馬塚が残されています。

お寺に集まる小鳥たち



宮城 気仙沼 清涼院 海浜 とある寺



海の怖さ、豊かさを伝える お寺は秘密基地！

浜辺と海がすぐそこにある高台に位置する清涼院。本堂の前から水平線が見えるくらい海は身近な存在です。美しく整えられたお寺の庭を歩くと、意外なものが目に飛び込んできます。それはたとえば、大きな船の甲板のようなウッドデッキに木と木を結ぶハンモック。そして、三角形の屋根がかわいいツリーハウス。その梁には、ガラスの大きな「浮き」がきらりと光りながらぶら下がっています。大人でもワクワクしてしまいそうになる冒険家の隠れ家のようなこの場所は、お寺の中に作られたNPO法人「はまわらす」の活動拠点です。

東日本大震災発生後の2年後に活動を

開始したはまわらすは、海に近づけなくなってしまった子どもたち(そしておとなたち)が、「海を知らずに生きるのもつらい！海で暮らすことを楽しもう！」との想いで、海と浜辺を中心に活動しています。

はまわらすの副理事を務める清涼院の三浦正道師は、この活動の意義を次のように語ります。「自然を体で感じるからこそ、わかる楽しさや学び。指一つで色んなことができる便利な時代へと変わっていくなかで時代に逆行しているのかもしれないけど、本当に大切な事を知って欲しい」

人と共にある海を取り戻すには、時間も人の手も必要です。海と人がふたたび近づき合うために、浜に伝わる「生きる知恵」をこどもたちに継ぐはまわらすの活動は、続きます。



お寺の周りの



いきものたち



暮らしをととのえる

お寺のおはなし

暮らしを彩る、癒しのお花



毎年、出会えた喜びを感じるのが季節の花。日頃から「この花が好き」と互いに伝えあうのもとても良いものです。

梅

や桜、桃に菜の花、タンポポ、チューリップが咲く季節、春が訪れようとしています。モノトーンのような冬を経てから目にする春の花は、振りまくような鮮やかさがあります。山内を飾る生花も徐々に春らしさを増してきました。東長寺住職の父、和夫大和尚はちょうど今頃に咲く黄色いチューリップが好きでした。折に触れて、家族にそのように伝えていたので、今でも花屋さんでチューリップが並ぶようになると、墓前や自宅に飾り楽しんでいきます。亡き人を思い起こし、こころ和ませる季節のお花。皆様にもそんな一輪がありますでしょうか。

* * *

花を眺めているとなんだかこころがホッとします。それは気のせいではなく、「花の観賞は心身のストレスを緩和する」という実験の結果があるそうです。

国立研究機関である農研機構が

2020年に発表した研究によると、ストレスを与えた実験参加者に花の画像を見せると、ストレスで上昇した血圧やストレスホルモンの値が低下し、ネガティブな感情も減少したそうです。このことから「花の癒し効果」が心理的、生理的、脳科学的に実証された」と結論づけています。

* * *

お仏壇があるご家庭も、写真を飾られているご家庭も、ご自宅でのご供養の形はそれぞれかと思えますが、この春はぜひ、お花を添えてみましょう。暮らしの中にある供養ですから、仏花にこだわらずその人に手向きたい、見て喜んでほしいとの気持ちで選べばよいのです。故人に対して捧げた花はたとえ一枝であっても、家の中に華やぎ、自分の生活の癒しになるものです。

お知らせ



[写真]右：茂木綾子

春！新しいことを始めたくなる季節です

一部同好会の新規参加 受付を再開します

暫くの間、新規の受け付けを中止していた各種教室・同好会ですが、このたび「写経の会」、「囲碁同好会」である「碁縁の会」、「太極拳」、「坐禅会」において新規ご参加受け付けを再開することいたしました。当山では文化活動を通じて「寺のある暮らし」が実践されることを目指しております。ご希望の方はお電話にてお問い合わせください。※定員を越えるお申し込みがあった場合は、ご参加いただけない場合もございます。

結の会

日本の伝統色を用いた 「カラーご位牌」が 登場しました

結の会では、この年始より、ご位牌の色が従来の「黒」に加え、日本の伝統色から選べるようになり

ました。追加されたのは全部で7色。鮮やかな朱（しゆ）、明るい洗朱（あらいしゆ）、徳が高いとされる黄爐（こうろ）、不変の象徴である金箔（きんぱく）、平和を思わせる鶯色（うぐいす色）、常緑樹・松の縁起にちなんだ常磐（ときわ）、高貴な本紫（ほんむらさき）となります。他者の多様性を認めながら、自分らしく生きる。そんなお人柄を表現するご位牌です。既存会員の方で、塗り替えをご希望の方については実費にて塗り加工を承る予定です。文由閣1階に見本と、それぞれの色についてのご説明をご用意しておりますので、お参りの際にぜひご覧くださいませ。

集めています！ 未使用のタオルなど

春は、身の回りの整頓や断捨離をなさる方も多いことと思います。ご家庭で未使用のまま保管されているタオルや手ぬぐいがありましたら、ご相談ください。

添菜单

- 堀江 洋子様（雑巾たくさん）
 - 横山 潤子様（編み物作品たくさん）
 - 横山 朋代様（雑巾たくさん）
 - 阿部 美江子様（はがき、切手たくさん）
 - 生方組様（お米、みかんたくさん）
 - 匿名ご希望 2名様
- 誌面をもって深くお礼申し上げます



カラーご位牌(全8色)

各種教室・同好会のご案内（3月～6月）

新規参加ご希望の方はお電話にてお問い合わせください。

■写経の会 お経の会

第三金曜日 午前11時より

3月17日(金) 4月21日(金) 5月19日(金) 6月16日(金)

■暮縁の会(囲碁)

第2・第4木曜日 午後1時より

※5月は変則的な開催となります

3月9日(木)・23日(木) 4月13日(木)・27日(木)

5月18日(木)・25日(木) 6月8日(木)・22日(木)

■太極拳

水曜日(月3回) 午前10時半より

3月8日(水)・15日(水)・29日(水)

4月5日(水)・12日(水)・26日(水)

5月10日(水)・17日(水)・24日(水)

6月7日(水)・14日(水)・21日(水)

■坐禅会

土曜日(不定期) 午後6時より

3月11日(土)・25日(土) 4月8日(土)・22日(土)

5月13日(土)・27日(土) 6月10日(土)・24日(土)

●仏教讃歌を歌う会 ●そば打ち同好会 ●水彩画同好会

●折り紙教室 ●お掃除ボランティア 以上は休会といたします

開催済

山内行事のご報告

■懺悔会・餅つき(12月28日)

皆様からお届けいただいた様々な思いをお焚き上げし、心身ともにお健やかに新年を迎えられますよう祈念いたしました。引き続き山門にて搗初め、地域の方やお子さんにもご参加いただき、鏡餅と紅白餅を滞りなく準備することができました。

■歳末年始法要・除夜の鐘

(12月31日～1月1日)

大般若経六百巻を転読し、新年



歳末法要の様子

の多幸と平和を御祈りいたしました。本年は檀信徒の皆様や除夜の鐘にいらした方々とご一緒に新しい年を寿ぐことができました。

■大般若祈祷会(2月11日)

感染症対策のため人数を限定してお勤めしました。転読の際に起こる「梵風」を受けると、一切の災いが除かれるといわれています。

チョコレート募金ご報告

おかげさまで、年明け早々に30セットすべて完売いたしました。お預かりした6万6千円と、東長寺ボランティア会より3万4千円を加えた総額10万円を、NPO法人「日本イラク医療支援ネットワーク」医療支援ネットワークに寄付させていただきました。寄付金はイラクの小児患者支援、シリア難民、イラク国内避難民支援や、福島の子どもたちを放射能から守る運動に使われます。皆様のご協力に心より感謝申し上げます。



春彼岸会法要(昨年の様子)

山内行事

2023.3月 — 5月

- ◆マスクを着用し、手指を消毒の上ご参加ください。
- ◆参加当日は、ご自宅で体温を計っていただき、公共交通機関をご利用の方は十分に気をつけてお出掛けください。

春彼岸会

【期間】3月18日(土)～24日(金)

春分の日を中日とし、前後3日間を合わせた計7日間が彼岸会の期間となります。ご先祖を供養する期間として、お墓参りや善行を心がけましょう。

●お墓参りは、本院・文由閣いずれも開門時間内にお参りください。

春彼岸会法要

【日時】3月21日(火・春分の日)

第一座…午前10時半受付より

11時打ち出し

第二座…午後12時半受付より

1時打ち出し

第三座…午後2時半受付

3時打ち出し

この法要では亡き方やご先祖様を偲び感謝する供養とともに、疫病退散、世界平和、戦禍にあ



春彼岸会法要(昨年の様子)

る方々の安寧をお祈りいたします。

新型コロナウイルス感染症予防のため、人数制限の上、三座に分けて厳修いたします。ご都合に合わせてご参列くださいますようご案内いたします。

●参列は予約制、各座先着限定30名様とさせていただきます。

ご希望の方はお電話(東長寺代表宛)にてお申し込みください。

参列のお申し込みは3月7日(火)から18日(土)までといたします。午前9時30分～

●ご参列の方へのお願い
ご来山の際に、体温を測定させていただきます。山内でのお食事は、固くお断りいたします。お飲み物は各自ご持参ください。お座席ならびにお焼香は、順にご案内いたします。

●ご参列の有無にかかわらず、萬亀に同封の「申し込みはがき」より、御とうばのお申し込みを承っております。春彼岸会法要にて、志主のお名前を読み上げ、ご供養させていただきます。詳細は以下枠内をご確認ください。なお、御とうばをお申し込みにならない場合は、「申し込みはがき」の返信は無用です。

御とうばのお申し込み方法

以下をお読みいただき、お申し込みをお願いいたします。

申し込みはがきについて

宛名の面に、「ご住所・ご芳名・電話番号を必ずご記入ください。切手は不要です。

御とうば代金および回料御志納方法

「現金書留」又は「郵便振替」よりお選びください。

現金書留をご利用の場合

①萬亀に同封の「申し込みはがき」に必要事項をご記入ください。

②現金書留専用の封筒を郵便局窓口で購入いただき、「申し込みはがき」と代金を同封の上、発送してください。

※必ず「申し込みはがき」を現金書留封筒に同封ください。

郵便振替をご利用の場合

①萬亀に同封の「申し込みはがき」に必要事項をご記入の上、投函ください。

②萬亀に同封の「払込用紙」にお名前、連絡先をご記入の上、払込手続きを行ってください。

※必ず萬亀に同封の「払込用紙」をご利用ください。

お申し込み締切日 3月15日(水)必着

その他

・花とうばの場合は、連名不可とさせていただきます。

・春彼岸会法要参列のお申し込みは、同封のはがきではできませんのでご注意ください。

積尊降誕会・ 花まつり法要

【日時】4月8日(土)／正午

昨年引き続き、内献にて厳修させていただきます。新年会につきましては、開催に向け検討を重ねておりましたが、コロナ禍での祝賀会開催は控えるべきと判断させていただきました。本年度の賀寿を迎える方々には、花まつり法要にて、ご長寿とご健康を願って御祈りさせていただきますと存じます。皆さまにはご参加いただけませんが、山内僧侶一同、心を込めてお祝い申し上げます。

「平和の祈り」

例年通り、4月8日の正午に梵鐘を鳴らして平和を祈ります。ご家庭でも、仕事場でも、どこでも結構です。手を合わせ、平和な日々が訪れることを願いましょう。

観音供養祭

【日時】5月26日(金)／午後1時より

観音様を讃えると共に、観音堂に

お祀りされた方々のご供養をいたします。

昨年に引き続き、参列はご遠慮いただき、山内僧侶のみにて内献にておつとめさせていただきます。

●御とうばのお申し込みを承っております。ご希望の方は、お電話(東長寺代表宛)にてご連絡ください。

護持会総会

お檀家の皆さまを対象とする護持会総会は、例年観音供養祭と同日に開催されておりました。今年も昨年同様、書面での議決とさせていただきます。

近日中に、総会資料を郵送いたしますので、ご確認の上、同封の「書面表決書」に各議案への賛否をご記載いただきご返信ください。書面表決書での賛成が過半数に達することをもって可決とさせていただきます。

なお、2023年度の護持会費については、皆さまの承認を得た後、個別に振込用紙を郵送いたします。

ぜひご参列を！

2023年
3月21日開催

春彼岸会法要について

「彼岸」はサンスクリットのparam(パラム)の訳語であり、菩薩さまが仏になるために修行を指す仏教用語「波羅蜜多」Paramita(パラミッタ || para ni(彼岸に) + ita(到った))と同じ意味を持つ「到彼岸」という言葉が由来とされています。

「到彼岸」とは、此岸から彼岸に至ることと解釈され、煩惱の激流である海の「此岸」から、「六波羅蜜」と呼ばれる修行によって海を渡りきり、「彼岸」という悟りの境地に入ることを意味します。この修行の完成を期する期間が、彼岸会の一週間になります。

「彼岸会(お彼岸)」は日本独特の仏教行事として広まりました。文献に初めて現れるのは『日本後紀』巻13の「大同元年(806)3月辛巳の条」で、「諸国の国分寺の僧をして春秋二仲月別つ七日に、『金剛般若経』を讀まし

む」と出ています。このころはまだ「彼岸」という言葉は用いられていませんでしたが、やがて日本独自の祖霊信仰の習俗が加わり、徐々に世間に広まり、この一週間はとにかく善行を行い善い功德を積む期間として理解されるようになり、お寺参りやお墓参りを行うようになりました。

浄土思想によると、極楽浄土は西方にあるとされています。太陽が真東から昇り真西に沈む春分と秋分の日には、此岸と彼岸が最も通じやすい日とされ、両日に彼岸に渡った先祖の供養を行うようになったといわれています。ちなみにお彼岸の初日は「彼岸の入り」、終日を「彼岸明け」と呼んで春分、秋分の日を「中日」と呼びます。

お彼岸は、此岸の私たちがご先祖様に近づき、感謝を伝えることが大切であり、尚且つ、自らの修行に励む期間といえます。

東長寺 基本情報

■開門時間について

午前9時から午後5時までといたします。

■電話での対応

午前9時半から午後5時までといたします。

【代 表】03-3341-9746

【縁の会】03-3353-6874

【結の会】03-5315-4015

■御葬儀について

山内葬儀、出張葬儀ともに、三密（密接・密閉・密集）に十分留意しながらおつとめしております。ご参列につきましては、なるべく

近しい方のみに限っていただき、ご会食はお控えくださいますようお願い申し上げます。

●通夜、告別ともに、僧侶の食事の同席は控えさせていただきます。

●生前葬儀契約をなさっている場合には、お食事は折詰弁当等をお持ち帰りいただいております。

■年回忌の法要について

年回忌法要は通常どおり承っております。

■参列者なしでの年回忌の法要

ご来山なさらずとも、参列者なしでの年回忌の法要も承っております。

■お墓参りについて

開門時間内にお参りください。体調の悪い時は、お控えください。体すよう願います。少人数にてご来山いただき、マスク着用の上、三密を避けてお参りくださいますようお願いいたします。

■ついでに法要について

毎月ついでに、その月に亡くな

られた方のお名前を読み上げ、ご供養しております。現在は日中の法要として、おつとめしております。ご参列は30名限定の予約制にて承っております。ご希望の方は、電話にてお申し込みください。

●法要開始午前11時

●ご参列の有無にかかわらず、花とうばを承っております。電話またはFAXにてお申し込みいただき、お支払いは現金書留にて郵送、または次回ご来山の際にご持参ください。

【電 話】03-3341-9746

【FAX】03-3341-2150

東長寺内の感染症対策

受付にアルコール消毒液をご用意しています。

随時、山内各所の清掃・消毒に努めています。

職員は全員マスクを着用し、手洗い消毒を徹底しています。

山内は十分に換気をし、本堂でのおつとめの際は、窓を開放して行っています。

次号予告

萬 亀

2023年6月号 vol.142

【特集】

インターネット予約システムが始まります。

※内容は変更になる場合があります。

今号萬亀を編集中の1月27日、日本政府より新型コロナのウイルス感染症法上の位置づけを、5月8日から季節性インフルエンザと同じ「5類」に移行すると発表がありました。今後、国の定める感染防止対策が変更になる可能性があります。現時点では判断が難しいため、引き続き東長寺ではこれまで通りの感染症対策を続ける方針です。状況を鑑みながら随時変更していきますので、ご不明な点はお問い合わせください。

永代供養墓

結の会のご案内

無縁の縁を結ぶ

～時代を見据えた新しい祈りの形～

これまでの血縁を中心とした供養の形にしばられず、遺族に負担をかけずに、
自分の人生観、死生観にたって、選ぶことのできるお墓です。



文由閣4階 龍樹堂(納骨堂)

納骨堂の資料請求・見学予約はお気軽にお問い合わせください

インターネットでご紹介

<http://www.tochoji.info>

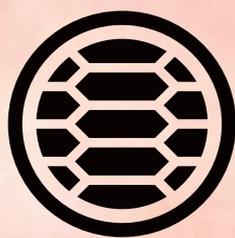


お電話又はメールでお問い合わせ

TEL. 03-5315-4015 電話受付時間
9:30～17:00(日曜・祝日も受付)

MAIL toiawase@tochoji.org

宗教・宗派は問いません。どんなことでもお気軽にお問い合わせください



東長寺寺報 萬亀

2023年3月号(第141号)

発行所: 曹洞宗 萬亀山 東長寺

発行日: 2023年3月1日

〒160-0004 東京都新宿区四谷4-34

(代表) TEL.03-3341-9746 FAX.03-3341-2150

(縁の会) TEL.03-3353-6874

(文由閣・結の会) TEL.03-5315-4015



www.tochoji.jp

このパンフレットは
FSC®森林認証紙
を使用しています。

FSC®認証は責任
ある森林管理を認
証する制度です。



FSC® C004698